

古文書を読む会学習記録

作成日 平成28年 7月 1日

| 日時 | 平成28年 6月23日 | 時間 | 10:00～12:00 |
|------|--|------|-------------|
| 場所 | 金沢区役所リハーサル室 | 出席人数 | 13名 |
| 講師 | 真田 雅行氏 | 作成者 | 兒玉 仙三 |
| テーマ | 第二学習 奥の細道⑥ | | |
| 概要 | <p>【立石寺→最上川→出羽三山→鶴岡・酒田（途中まで）】</p> <p><立石寺> 5月27日 「山形領に立石寺と云う山寺あり。慈覚大師の開基で殊に清閑の地也。一度見物しておくがよい」と尾花沢の人々に勧められた。それで、尾花沢から引き返して立石寺に参詣。岩に岩を重ねるように山が出来ており、松柏は老木で、土や石も古く苔が覆い、岩の上の仏閣は皆扉が閉められて物音一つ聞えない。佳景寂寞として、心が澄み切って行く。 ○閑さや 岩にしみいる 蟬の声</p> <p><最上川> 5月28日 (1) 「大石田長逗留」 最上川を船で下ろうと、大石田と云う所に逗留。この土地は古くから俳諧が盛んで、往時の風流を懐かしんでいる俳人から指導を頼まれた。止むに止まれず、俳諧の連句一卷を残した。此度の風流は乞われて俳諧一卷を興行するまでに至った。 (2) 「最上川描写」 最上川は陸奥より流れ出て、山形辺を上流とす。中流には「ごてん・はやぶさ」等の難所が有り、最後は酒田の海に流れ込んでいる。川の兩岸には山が覆いかぶさり、草木の茂みの中に船を下す。白糸の滝は青葉の隙間に見え、仙人堂は岸に臨んで立ち水は漲って乗っている船は危険を感じず。 ○ 五月雨を あつめて早し 最上川</p> <p><出羽三山> 6月3日から1週間滞在 (1) 3日 羽黒山に登った。凶司左吉を訪ね、その案内で別当代会覚阿闍梨にお目にかかった。南谷の別院に泊まり、手厚いもてなしを受けた。 (2) 4日 本坊にて俳諧興行。 ○ 有難や 雪をかおらす 南谷 (3) 5日 権現に参詣。ここは「羽州黒山の神社」で、羽黒山・月山・湯殿山を合わせて出羽三山と云う。当寺は武江東叡に属し、霊山霊地として験効を尊び、一方では恐れ謹んでいる。繁栄長しえにしてめでたい御山。 (4) 8日 月山に登る。強力に案内されて、息絶え身凍えて頂上に至る。夜明けを待って湯殿山に下った。この山中の微細は行者の法式として他言を禁じられている。阿闍梨の求めに依り、三山巡礼の句々を短冊に書く。 ○ 涼しさや 'ほの三か月の 羽黒山 (注1、「ほのかに見える三日月」の意) ○ 雲の峯 いくつ崩れて 月の山 ○ 語られぬ 湯殿にぬらす 袂かな ○ 湯殿山 銭ふむ道の 泪かな</p> <p><鶴岡・酒田> 6月10日 羽黒山を立って、鶴ヶ岡・長山氏重行宅に迎らる。歌仙を興行。川舟に乗って酒田へ行く。医師の不玉亭を宿とす。 ○ あつみ山や 吹浦かけて 夕涼 ○ 暑き日を 海に入れたり 最上川</p> | | |
| 次回予定 | 平成28年 7月 14日 10:00～12:00 於：金沢区役所リハーサル室 第一学習 赤井村石井家文書⑦ | | |